第 59年4月15日 皐月賞 ゼゼンニシキを | 馬身り ビゼンニシキを | 馬身1/4退け皐月賞レコードで優勝

■シンボリルドルフ■



第 58年7月23日 新馬 戦 インコースを割って出 インコースを割って出てまず1勝目



58年10月29日 いちょう特別 直線外から豪快に伸びて2連勝





58年11月27日 オープン

2番手から楽々と抜け出して3連勝

第 59年9月30日 セントライト記念 2 着オンワードカメルンに 3 馬身差のコースレコードで7連勝



第 59年11月11日 菊花賞 追いすがるゴールドウェ 初の無敗の三冠馬に 追いすがるゴールドウェイを3/4馬身差抑えて、史上初の無敗の三冠馬に

59年3月4日 弥生賞 2番人気だったがビゼンニシキに | 馬身34の差をつ



58年3月6日 弥生賞 直線インコースから鋭く伸びて重賞2連勝



57年11月6日 新馬 2着に5馬身の差をつけて逃げ切る



第 58年11月13日 菊花賞 9 2着ビンゴカンタに3馬 3 冠達成 2着ピンゴカンタに3馬身差の圧勝で、19年ぶりに



58年4月17日 皐月賞 雨、不良馬場の中、泥まみれになってメジロモンス ニーに½馬身差をつけてまず一冠



第 2 57年12月4日 黒松賞 直線の競り合いで、ユウフブキをクビ差抑えて2連



59年10月7日 毎日王冠 11カ月ぶりの実戦。カツラギエースにクビ差敗れた





57年12月25日 ひいらぎ賞 3 戦 後方から鋭く伸びたが、ウメノシンオーにクビ差及 ばず 2 着



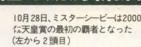
59年10月28日 天皇賞 戦 最後方から追い込んでテュデナムキングに½馬身差。 コースレコードで初の2000元天皇賞を制す



58年10月23日 京都新聞杯 8 後方から伸びたものい、 れた(写真は4コーナー) 後方から伸びたものの、カツラギエースの4着に敗



58年2月13日 共同通信杯4歳S ウメノシンオーをアタマ差抑えて重賞初制覇





自然が走る

しての天賦の才を精いっという感じを抱くこと -凡な美しさ』があり、 酔いしれる。 っぱいに表現し、発揮して勝つとが多い。そこには生きものと 同じ生き ものと して私は感

かつてプロ野球の世界の長島(茂雄)と王(貞治)を対

丹精こめてつくられたボンサイ(盆栽)の名品である」「長島は忘れたころにやってくるテンサイだが、王は すがたや肢体にも、 と言ってみたことがある。 いわく言い難い『不思議』があり、 現役時代の長島選手に私ど ミスターシービーの動 イだが、王は

一年遅れて "帝王"と呼ばれがひとを魅きつけるのだ。 と呼ばれるルド ルフが登場し、

「テンサイは忘れたころにやって

いうならばミスターシービーもそうであった。ある日突然に、天地をゆるがして出現するもの という言葉がある。往々にしてそれは前ぶれ のだが、

自分がなにをしようとしているのかまだよくはわかっ自分がなにをしようとしているのかまだよくはわかっていない。そうか、ほかの仲間と一緒に走って競うのか、勝てばいいのか。後方から馬群の外をまわって仲か、勝てばいいのか。 頭にしかみえなかった。ミスターシービーは出遅れた。ーは、不器用で、ものおじしない、やんちゃな幼い一はじめて黒松賞レースにあらわれたミスターシービ だ見る者には〈天災〉とも〈天才〉とも判別はつかな

大きいため、 〈天才〉 は多くの場合、 最初は〈偉大な平凡〉にみえるときがあ 内包している資質があまりに

に見えた。 うことなのか、 走り出し、馬群を割って前に出た。 皐月賞のレ しろから出て、途中で気がついたようにかれにはまだよくわかっていないよう 勝つということがどう

われたのはやはりダービーの舞台であったろう。〈非凡〉を越えた〈天才〉として私どもの眼前 もの眼前にあら

眼には優しい豹が吠えるライオンに変貌したようにみな大器はようやく勝負をおぼえたというべきか。私の すでにこのときかれは勝つことを知っていた。

を感じた。

ず強いところが自然児ミスターシービーの底深い凄みくらいあるのか、容易にはわからない。強いと思わせ突然に出現した印象を与えるものだ。秘めた力がどの突然に出現した印象を与えるものだ。秘めた力がどの のある魅力である。

「かれは、

女性のファンたちは言う。

「そのとおりだ」

素直さだろう。 ば、それはみな『自然』の生きものが持つ歪みのないや、得意や恥じらいの気持が漂っている。考えてみれ 優しさや向う意気や、 私もうなず ミスターシービーを見るとき いの気持が漂っている。 走って勝つすがたには、どこか、 不安や自信

ろうか。血統の良し悪しについて言っているのではなドルフはボンサイの名品」という言い方はできないだれているが、「ミスターシービーはテンサイであり、ル ドルフは『王』 科学的な調教と設備のなかからつくられ、送り出されルドルフのほうはさまざまの人の智恵によって合理的 ルドルフのそれには『人』が丹精した名作のおもむきすがたには得もいわれぬ『自然』の気が立ちのぼるが ルドルフが強いかミスター きたようなところがある。ミスターシービ 自然のなかから忽然と誕生してきた感があるが 人たちの努力によって生まれたままの才を成長は『王』のようにみえる。ミスターシービーは えればミスター して観客の一人と シービーは『長島』であり、 シービーが強いかと論議さ して声援を送る私には、 送り出され ーが走る

強いと思わせて強いのがルドルフとも 強い と思わせずに強いのがミスタ いえようか。

勝つ者は、たしかに強い。しか「強さ」とはいったい何であろう。

ず勝つ、 「ほんとうの強者はやさしいひとです」眼の裏にうかべるとき、私は将棋の大山永世名人が、 とはいえない。ミスターシービ 強い者はかなら のすがたを

強さもすばらしいが、しかし、ミスターシービーの体頼らない、ということだろうか。『帝王』ルドルフの力の強さだけでなく弱さをも見通し理解する、力だけに が底知れずかくされているような気がしてならない。 内にはその力になお勝つ『自然』の資質や『やさしさ』 と洩らしていた言葉を思い出す。やさほんとうの強者はやさしいひとです」 しき者は相手

ナーであった。不意のアク鍛えぬかれた強者であり、 題となった中長距離のメアリ 会に持ちこされたが、 対比で言うなら、 ッド になぞらえることもできるだろう。 シービーはバッド 不意のアクシデントで勝負はつぎの機 不意のアクシデントで勝負はつぎの機 雕のメアリー・デッカーとゾーラ・一両馬は、ロス・オリンピックで話 ルド ルフをデッカー いえるかも しれない。 デッカーは るなら

県の千明牧場で育った。千明牧場は白根山や武尊のふミスターシービーは『孤高の牧場』といわれる群馬 目先のことは考えない。損をしてもいい、何年いうダービー馬を送り出した名門の牧場である。 スゲヌマ(昭和十三年)、メイズイ(昭和三十 品村に三代つづいている牧場で、

11月11日、シンボリルドルフは日本競 馬史上初の"無敗の三冠馬"となった

> が出れば本望であるし、なによりの光栄だ。千明家の しているが、これは事業でも商売でもない」 事業はほかにあって、牧場の経営や馬の育成はあくま で趣味に属することだ。懸命にいい馬を送り出そうと ってもいい。血統に血統を継いだなかから一頭の名馬 という、いまどきめずらしい、イギリスの貴族にも

場ということができるだろう。 もっぱら基礎トレーニングをおこない基礎体力をつけ と、持てる能力を最大限に発揮できるよう、ここでは が生まれ持った才能や能力を、その馬なりに精いっぱ い発揮して、 「強い調教による育成や馬づくりはやらない。その馬 生きてくれればいい。競馬場に行ったあ

当主の千明大作にまで一貫して維持されている。。自然

と『血』をたいせつにする、きわめてクラシックな牧

似たオーナーブリーダーとしての正統な精神と態度が

と、大沢敬場長も言っている。

このような環境のなかで育ったミスターシービーはお 然の句いをただよわせて走る。 ない。人間が『馬をつくる』のではない。伸び伸びと のずから、本来のサラブレッドとしての 能力を養ってくれればいいということになるだろうか。 健康に育って、晴れの舞台であらゆる状況に即応する エリート育成でもなく、天才教育をほどこすのでも "血"と"自

走れ!自然児! と叫けぼう。

うか、たずねられて、 ービーとどちらが強いか、どちらに乗ってみたいと思 関西の名騎手・武邦騎手は、ルドルフとミスターシ

ミスターシービーはどうも、正直すぎる。」 ドルフはすぐに先行集団に位置する。素直さいがあり、 しかし乗るとしたらルドルフのほうを選ぶだろう。 「ほんとうに強いのはミスターシービーかもしれない。 と答えているそうだ。

だが、ミスターシービーは人を疑いなく信頼しながら という快挙を成しとげた。 きレースをまさに自然に勝って、 持つ野性そのものに対して柔順なのだ。かれは勝つべ ターシービーには周囲の人たちの努力による、 であろう。かれは人にたいして柔順というより自分の 育った馬そのものの野性に富む強さと美しさがある。 も、あくまで自分に『正直』な馬といえようか。ミス 人間はかれらにとって主人ではなくて、信頼すべき友 この言葉はいみじくも私の印象を裏書きしている。 自然が走っている。 ルドルフは人によってつくられた。素直。で強い馬 史上三頭目の三冠馬 自然に

サラブレッドが走っている。

強い!

勝て!

……ミスターシービーはつねに私どもに、

生きるこ

とのすばらしさや生命の美しさを教え、 「どうだい。見たかね」 なんという恩恵だろう。この天使ともいうべきテン と声をかけてくる。

サイに栄光あれ。